



日本は、これまで7度の感染拡大を経験し、新型コロナウイルス感染症に対する理解も深まり、検査体制の拡充・ワクチンの追加接種も進んでいます。昨今のオミクロン株のBA.5系統は、感染者数がより増加しやすいこともあり、依然として新規感染者数は多く、いわゆる高止まりの状態が続いています。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生当初とは異なり、行動制限を行うのではなく、社会経済活動をできる限り維持し、新型コロナウイルスと共存する平時への移行が慎重に進められています。

## ■2022年8月現在

### 新型コロナウイルス感染症に罹った方が飼育しているペットについて■

- 同居のご家族などに、ペットのお世話をしてくださる方がいらっしゃるようでしたら、その方にお世話を依頼してください。  
可能な限り、ペットにとっては同じ家での飼育が望ましいです。
- ご自宅で療養される場合には、療養中の部屋にペットを出入りさせないようにしてください。
- ご自宅でお世話することができないようでしたら、信頼できる方になるべく早くお預けする方が良いと考えます。
- 新型コロナウイルス感染者が飼育している無症状のペットを預かる際には、隔離・個人用防護具の使用・シャンプーをする必要はないと考えます。

新型コロナウイルス感染者が飼育していた動物が、何らかの症状を示している場合には、まずは電話でかかりつけの獣医師に相談して下さい。

※かかりつけの獣医師がいない方は、お近くの動物病院にご相談ください。

- ペットを預かった方は、ペットの世話をする前と後、またペットのごはんや水を入れるボウル、おもちゃ、寝具、トイレや排泄物を扱った後は、必ず手を洗うようにしましょう。

本会では、現時点では、新型コロナウイルス感染症は、適切な環境で飼育しているペットからヒトへの感染の可能性は限りなく低いと考えています。



海外では、集団で飼育されているミンクから、ヒトへの新型コロナウイルス感染症の感染が報告されていますので、ミンクと近い種類のフェレットについても、注意したほうがよいでしょう。

